

生きる力の土台を育む小中連携教育
確かな学力の育成
豊かな心の育成
健やかな体の育成
一人一人を大切にする教育の推進
教師力の向上と魅力ある学校づくり
家庭と地域の教育力向上

- ・「池中ブランド」は授業の受け方から意識を向けさせる。
- ・教養となる知識の蓄積と人としての生き方を考えさせる。
- ・ナレッジマネジメントのさらなる充実とデータ化を推進する。
- ・池中教師集団としての統一感ある徹底した一貫指導の共通理解を図り常に振り返り確認する。
- ・「呼吸タイム」を授業に活用することを推奨する。
(吸って3秒、止めて2秒、はいて5秒の6セット)
- ・体幹を意識した聴く姿勢の確保と集中力の維持(椅子を傾けない、机に伏せない、横座りをしない)
- ・家庭学習ノートの習慣化と定着(定期的な提出と確認)
- ・よりよい授業作りのための「授業ミニマム32」を自分の教科及び道徳に活用する。
- ・自己肯定感や自己有用感の感じられる学級づくりのために「3, 7, 30」の流れを意識した学級経営をする。
- ・積極的に自分の考えを発表できる場として、教師側が仕掛けをつくり意図的・計画的に進める。(生徒の指名等)
- ・タブレットPC等のICT機器の有効活用と小中連携教育における小中学校での相互実践授業を行う。
- ・タブレットPCを使った課題学習やオンライン授業への実践を行い、主体的、対話的で深い学びの授業を展開する。
- ・朝の読書活動を利用して読書への関心を高めメディアセンターを一層有効活用させる工夫を行う。
- ・自分事として捉える道徳の授業改善と評価法の模索をする。
- ・SDGsを意識したISS活動の充実と学習意識の向上を図り、各教科に必要な用語を中心とした言語活動を充実させる。
- ・家庭と連携したSNSルールの再徹底と活用の実践を探る。
- ・50分授業の完全確保、新学習指導要領の完全実施及び始業終業の挨拶の徹底を行う(先言後礼、声をしっかり出す)
- ・各教科における3観点評価の平準化と課題提示の工夫
- ・キャリアパスポートを活用した職業観を育てる進路学習

本年度の方向性

どうすれば出来るかを考える
～geniusを探る～

伝統とは革新の連続である

自分を大切にしよう

第7の習慣

自分を磨く。
成長し続ける。

周りの人たちの
ことを考えよう

第6の習慣

力を合わせる。
みんなで考えた方がうまくいく。

第5の習慣

わかってあげてから、わかってもらう。
お互いにわかりあう。

第4の習慣

Win-Winを考える。
みんながハッピー。

自分から始めよう

第3の習慣

大事なことから今すぐに。
自分の約束を守る。

第2の習慣

ゴールを決めてから始める。
何が大切かを考える。

第1の習慣

自分で考えて行動する。
自分に責任をもつ。

自己指導能力の育成

～学校教育目標～

当たり前のことを当たり前にできる人を育て、豊島区教育ビジョン2019の実現を目指し、知、徳、体のバランスのとれた生徒の育成に取り組む。
さらには、人権尊重の精神を基調とし、逞しく、主体的に生きる生徒を育むとともに、小中連携を基調とし、ISS活動を通して安全・安心な学校づくりに邁進する。

- ・すすんで学び、実践する人
- ・心身ともに健康な人
- ・感謝する心ともら、責任を果たす人

- ・池中ブランドの確立に向けた教養と品格の育成を図る。
- ・特別の教科道徳の授業を基盤に、全教育活動を通して人の役に立つことを意識させ、人間性・社会性を身につけさせる教育を推進する。
- ・多くの発表の場を設定し、自分の言葉で表現できる判断力と実行力の育成を図る。
- ・学校全体として同じ方向の良きヒドゥンカリキュラムの共通理解を図る。
- ・組織的ないじめ撲滅の初期対応を徹底するため教職員一人一人の「気づき」を大切にする。
- ・SCやSSWと連携し「安定した心」を育て、人として生きる意味を考え自分も他人も大切にし共存する意識を育てる。
- ・挨拶(先言後礼)、返事、廊下歩行のマナー等の礼法の指導の徹底を図る。
- ・特別支援教室を活用した個別指導の充実及び専門機関と連携した迅速な対応。
- ・自他共に大切にする人権尊重の精神を理解した学級・学年経営を行う。
- ・通常の学級における配慮を要する生徒の理解と具体的な組織的対応を図る。
- ・ノーマライゼーションの理念に基づくインクルーシブ教育の根底を確立する。
- ・自らの授業力、指導力を磨き体罰によらない指導法を体得する。
- ・「全ての教師は国語の教師」としての良い言葉遣いを実践する。(生徒の呼び捨て、大人としての言葉遣い、正確な言葉の活用)
- ・自国の素晴らしさを実感できる道徳と絡めた国際理解教育の推進を図る。
- ・校内外の全ての大人に挨拶をする指導を徹底する。(来客、小学校の先生等)
- ・生徒会活動の一層の充実と課題解決能力の育成を図る。

- ・SDGsを意識したISS活動を通して、自助、共助に耐えうる体力の向上と安全確保意識の醸成及び共生の考え方をもたせる。
- ・運動に親しむ能力や態度を育成し、自らの健康を考えられる生徒を育てる。
- ・給食指導を中心にして、食に関する興味関心を高め、教師自ら食を大切に、感染対策及びマナーを遵守した食育指導の徹底を図る。
- ・運動会などの体育的行事の一層の充実を図る。(小中連携を視野に入れて)
- ・「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き」をセットで考えた健康指導を行う。
- ・「一生懸命やる姿が格好良い、本気でやるから素晴らしい、心を込めると感動する」の奨励。
- ・教師が自ら範を示し、あきらめずに最後までやり抜く気力と体力を育成する。
- ・身近な問題として捉えるべく性教育やがん教育の理解と実践を行う。
- ・ゲストティーチャー等を活用した土曜授業及び講演会の実践を行う。
- ・「落ちてこない、動かない、倒れてこない」を合い言葉に地震防災教育の推進。
- ・東京オリンピック、パラリンピック教育の意を受け継ぐ「学校レガシー2020」の確立と継承を図る。